

の前の空き地になっているところに本堂があったが、現在は本堂はなく、裏の青年館に御本尊様（阿弥陀如来）などの寺宝が保管されているものの、弘法大師像はここにはない、とのことでした。ただし、御接待をされている方の中には、そんなはずはない、ここにあるはずだと言われる方もおられたのですが、少なくとも五鈷杵を持った典型的な弘法大師像は見当たりませんでした。

2024年度の印西大師の巡拝では、ここに到着すると、下の写真のとおり、まず弘法大師供養塔前で、次に四国八十八ヶ所巡拝記念碑の前で、最後に戸をあけられた青年館の前で、般若心経の納経（読経）が行われました。大師堂がないのに弘法大師供養塔の前で読経されることについて「小倉組」の旗を持った地元の役員の方にお聞きしたのですが、昔からそうです、ということだけで事情はわかりませんでした。



弘法大師供養塔前で読経



四国八十八ヶ所巡拝記念碑前で読経



青年館前で読経

四国八十八ヶ所の札所でも江戸時代初期までは、各寺に必ず大師堂があったというわけではなく、印西大師においても創設当初は弘法大師の石像は無かったと思われるので、巡拝ヶ所に大師像が必須というわけではないのかもしれませんが。

また、印西大師の巡礼の方々は、各札所の大師堂前（複数の大師堂があれば各大師堂ごとに1回ずつ）と、本堂（御本尊様）前で般若心経の納経（読経）をしていました。宝珠院の場合、大師堂は光堂に、御本尊様は青年館にあるということから、御本尊様に会うためにわざわざ青年館までやってくるのではないかと思いました。（推測）

(2) 宝珠院

小倉村字三門口にあり天台宗延暦寺派にして泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 由緒不詳 檀徒153人（印旛郡誌）